

活用形の基本と六つの活用形

図解：活用形は「後ろに続く語」と「文中での働き」で見分けよう

動詞を見る

→

後ろの語を見る

→

六つの活用形から判断

未然形

「ない」「う・よう」などに続く

連用形

「ます」「た」「て」などに続く

終止形

文を言い切るときの形

連体形

名詞などの体言に続く形

仮定形

主に「ば」に続く形

命令形

命令・指示を表して言い切る形

このプリントでは：動詞の六つの活用形を中心に学習します。

ポイント：「飛ぶ。」と「飛ぶ鳥」のように、終止形と連体形は同じ形になることがあります。形だけでなく、文がそこで終わるか、名詞に続くかを確認しましょう。

活用とは？

問1 問いに答えなさい。

「読む」は後ろに続く語に合わせて「読まない」「読みます」のように形が変わります。このように語の形が変わることを何といいますか。

六つの活用形

問2 六つすべて答えなさい。

動詞の六つの活用形を、未然形から順に答えなさい。

終止形と連体形

問3 それぞれの活用形を答えなさい。

①「鳥が空を飛ぶ。」の「飛ぶ」と②「空を飛ぶ鳥」の「飛ぶ」は、それぞれ何形ですか。

① _____ ② _____

仮定形と命令形

問4 それぞれの活用形を答えなさい。

①「ていねいに書けば読める。」の「書け」と②「ここに名前を書け。」の「書け」は、それぞれ何形ですか。

① _____ ② _____